第２章　村山市の現況

村山市は山形県の中央部、山形盆地に位置しています。市の面積は 196.98 ㎢で、市域のほぼ中央を最上川が北流する独特の地形を有しています。昭和 29 年 11 月 1 日市制が施行され、楯岡町、西郷村、大倉村、大久保村、冨本村、戸沢村が合併しました。昭和 29 年 12 月に袖崎村が編入、昭和 30 年 1 月に大高根村が編入しました。

市の名称は、当時の経済の中心地であった楯岡の名が候補に上がりましたが、合併他村との協議を経て、この地方の総称を生かし村山地区の中核都市へという意気込みと期待感をもって「村山」と名付けられました。

図 2. 村山市の位置

１．村山市の人口

市域の人口は昭和 22 年 (1947) の 42,777 人をピークとして人口減少が始まり、国の推計では平成 52 年 (2040) には人口が 18,000 人を割り込む見通しとなっています。社会動態では、全体としては転出数が転入数を上回る「社会減」の状態で推移しています。広域的な人口移動は、男女ともに進学や就学の時期に県外への転出が多くなっており、特に子育て世代の女性の転出が顕著です。

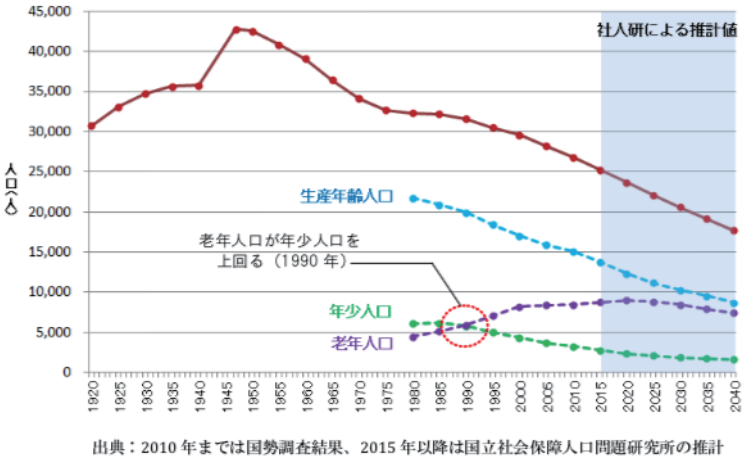
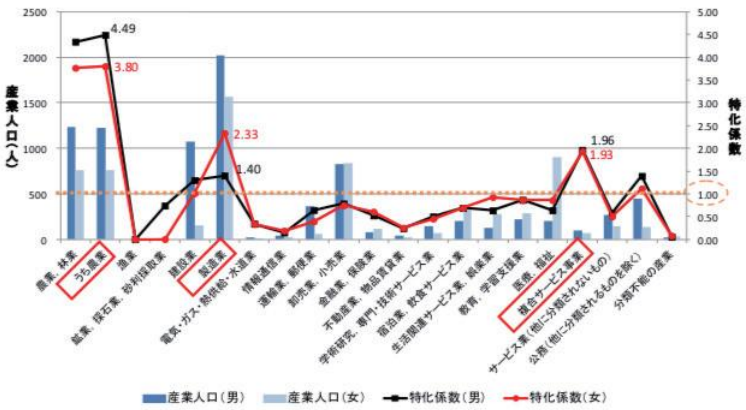


図 3. 年齢 3 区分別人口の推移 (村山市)

２．村山市の産業

村山市の産業構造について、産業の強みを表す特化係数を見ると、農業が最も高く就業人口が多いことが分かっていますが、50 歳以上の就業者が 8 割を超えており、農業従事者の高齢化と後継者不足が課題となっています。このような状況の中で、農・工・商業者・学生等が連携をし、地場産品を活かした産業や新しいサービスの提供など 6 次産業化を促進することで、しごとの創出・人材育成を行うことを目指しています。



注：X 産業の特化係数＝村山市の X 産業の就業者比率／全国の X 産業の就業者比率
特化係数が 1 であれば全国と同様、1 以上であれば全国と比べてその産業が特化していると考えられます。

図 4. 男女別産業人口

3．村山市の観光

約 750 品種、20,000 株のバラが咲き誇り「かおり風景 100 選」「恋人の聖地」にも認定されている東日本最大規模の「東沢バラ公園」、全国そば街道発祥の地として、村山市で採れるそば粉を使用した本格手打ちそばが自慢の「最上川三難所そば街道」、最上川舟運最大の難所といわれた碁点・三ヶ瀬・隼を巡る「最上川三難所舟下り」、最上川ビューポイントに指定されている「大淀の眺め」、真夏の夜を熱く盛り上げる「むらやま徳内まつり」等、様々な観光資源があります。その他にも、村山市が発祥とされる「居合道」など、新たな観光プログラムの開発も進められています。

第 3 章　村山市の地理的環境

1．村山市の位置

村山市は山形県の中心部に位置し、東西 22km、南北 15km の東西に長い形をしています。村山市が所在する山形盆地は、東の奥羽山脈と西の朝日連峰に挟まれ、盆地のほぼ中央部分を最上川が北流する、南北約 40 ㎞東西約 20 ㎞の船底型を呈する広大な盆地です。村山市はこの盆地の北部に位置し、東西に分けるように市の中心を最上川が流れています。東側には低地と奥羽山脈の甑岳などの山々がそびえており、そこを源とする大沢川や大旦川によって楯岡扇状地が形成され、この扇状地と最上川沿岸部の丘陵地帯に挟まれるように、河間低地や後背湿地などの平地が形成されています。また、西側には出羽丘陵へと連なる河岸段丘[1]が形成されています。

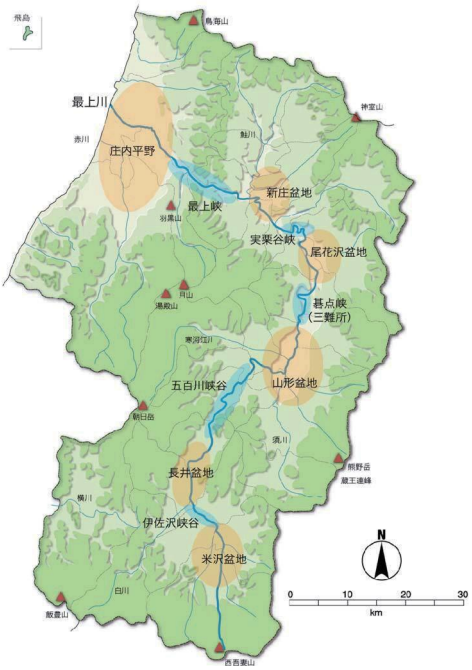


図 5. 最上川流域図（山形県『最上川流域の景観』15 頁より転載）

2．村山市の地形分類

村山市の地形は西から次の 4 つに大きく区分されます。

①葉山を中心とした西側の山地・火山地

200 万年よりも以前の成立とされ、最上川の旧河床が隆起して台地となった河岸段丘が多数形成されています。

②山地縁辺東側に位置する隆起帯

活断層をその成因とし、複数の隆起帯が確認されます。最上川の下刻（かこく）や側刻[2]による最上川河岸段丘、東流して最上川に注ぐ富並川河岸段丘によって構成されています。

村山市を代表する名所ともなっている最上川の三難所は、この隆起帯に位置しており、すぐ東側は沈降帯となっています（③として後述）。また隆起帯範囲を流れている最上川の河床は岩盤となっているため、川の流れは平面的な振れ幅をあまりもたず、下に向かう下刻作用が強いとされます。河岸段丘に含まれる北山層（大久保附近の北山丘陵に見られる褶曲帯（しゅうきょくたい））もこの隆起帯と沈降帯に成因を持ちます。これらの地層の年代は、「置賜湖」や「新庄湖」などと同じく成立期は 100 万年～ 70 万年前にまで遡ります。

1　段丘は河川，海，湖に沿って，あるいは谷筋に沿って分布する階段上の地形のことです。台地との区別は、段丘は過去の水面に関連して水中で形成された平坦面がその後に離水したものを指します。平坦な地表面（段丘面）と急傾斜な崖（段丘崖）からなりますが、段丘の成因を強調して河成（岸）段丘、海成段丘、湖成段丘と呼んだりします。

2　下刻は河の流れなどが下方（底面）に向けて働く浸食作用。側刻は河川の両側または片側の岸を削る作用。

③最上川より東側の沈降帯（軟弱地盤）

最上川の氾濫原の後背湿地と自然堤防帯からなり、自然堤防帯は旧河道も内包しています。

東側から下る河川はいずれも小河川のため大きな扇状地が発達しませんでした。このため粗粒の堆積は発達せず、深い軟弱地盤が形成されています。この地盤については東北中央自動車道の工事に伴い調査され、ボーリング調査の結果ではおよそ 70m 前後の厚さで堆積していることが分かりました。堆積年代はおよそ 30 万～ 7 万年前と推測されています。

一方、大倉溜池西部にある居合神社の所在する辺りは「低地帯」の中での「分水嶺」となっていますが、この変化は地図上では川筋が向かう方向の変化として確認ができます。またこの地域は山形盆地における北部と南部での気候帯の変換点ともなっています。

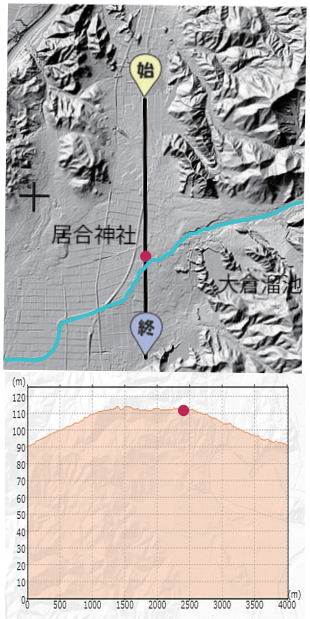


図 6. 居合神社周辺の陰影起伏図と断面図（始－終）
※赤丸は居合神社地点

④甑岳を含む東側の奥羽山脈西裾の山地

山脈からの小扇状地帯を含みます。羽州街道はおおむねこの扇状地の裾に位置しています。

3．市内各地域の地形的な特徴

広義の山形盆地を南北に隔てる隆起帯は、尾花沢市側と村山市側の境にある分水丘陵に連なり東西方向に伸びて山形盆地を閉じています。この隆起帯の成立期はおよそ下末吉海進（約 12 万年前）以前と見られ、そのころには既に隆起して段丘面となっていました。

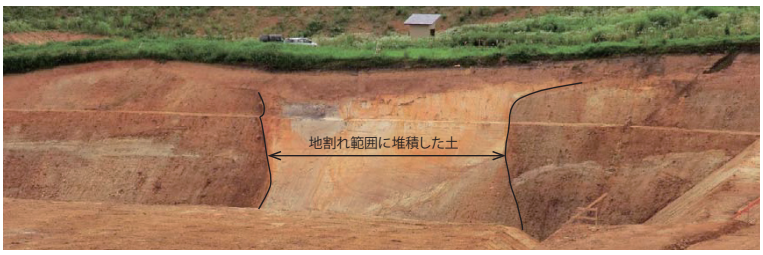


図 7. 清水西遺跡の丘陵西側掘削壁面に露われた活断層

市域では様々な地形的特徴がみられますが、激しい構造運動の痕跡である断層が見られるのはおもに市域の西側です。一方最上川の東側では東北中央自動車道の建設にさきがけて行われた市内清水西遺跡の立地する丘陵部直下で、幅 10m ほどの断層が確認されています。

●湯野沢北東の高森山付近で見られる「北山断層」。扇状地際に隆起帯が存在しています。
●大久保の「大久保遊水地」周辺は、微隆起帯中にある旧河川や自然堤防の痕跡が、現在の土地利用区分に影響を与えている好例として挙げられます。
●楯岡周辺は扇状地ですが、砂や礫が堆積しない氾濫地形の典型的な例として挙げられ、様々な微地形が確認できます。
●碁点・隼の瀬の川底は岩盤となっているため、船を安全に通すためには「舟道」を人工的に掘削する必要がありました。今でも渇水期には運河のような水路状の掘り込みを見ることが出来ます。
●「西郷」は最上川の自然堤防上にその中心がある集落です。
●「大高根」には巨大地すべり痕跡があります。
●「冨本」も扇状地上に立地している集落です。

4．村山市の気候

村山市は、県内で夏は最も暑く冬は最も雪の少ない山形盆地と、夏は最も涼しく冬は最も雪が多い尾花沢盆地の境界に位置しています。日本海岸気候と太平洋岸気候の双方が見られ、市域の気候は地域によって大きく異なります。このような多様性を持つ村山市の気候には、次の５つの特徴があります。

①冬に寒く、夏に暑い。冬日でも夏日でもない日数は県内で最も少ない。

②積雪深は市内の南から北に向かって急速に増加し、地域差が大きい。

③春から夏にかけて乾燥気候となり、灌漑水なしでは農業が成り立たない。

④夏は高温の日数が県内で最も多い地域である。

⑤ヤマセによる凶冷型の夏でも、奥羽山脈の山蔭の為比較的天気が良く気温が高い。

5．村山市の自然

市域の西に位置する葉山はブナ林が広がっており、低地には落葉広葉樹林が広がっています。峰づたいに、サラサドウダン、シラネアオイ、ユキツバキ等貴重な植物も多く、県の天然記念物であるトガクシショウマも見ることができます。一方東に位置する甑岳は、山頂付近ではブナ林が残っていますが、最近はスギ、ナラ、クリなどが多く見られるようになりました。昔、養蚕に利用されていた風穴もあり、ウサギシダなどの貴重な植物も見られます。

最上川沿いの河島山地域は、立地環境から伝統的に農村生活と密接なかかわりを持つ里山です。アカマツの二次林を中心とし、ブナ・コナラなどの落葉広葉樹林が存在する多様な植生と数多くの動植物が確認されており、山形県の里山環境保全区域に指定されています。

ブナ林―葉山―
かもしか―楯岡楯山―
白鳥とカモ―湯沢沼―
杉林―甑岳―
大高根
戸沢
西郷
富本
大久保
袖崎
大倉
楯岡
富並川
最上川
樽石川
千歳川
沢の目川
大旦川
湯沢
大沢川
十生田
本飯田
長島
大槇
稲下
河島
湯野沢
ニホンザル
ニホンカモシカ
ヤマドリ
カケス
ブナ林
ヒメサユリ
カルガモ
マガモ
ホオジロ
カッコウ
メジロ
ホンドタヌキ
ホンドキツネ
カワセミ
オオルリ
ニホンツキノワグマ
ヤナギトラノオ
ヨーロッパカブトエビ
ウゼントリカブト
ナガミノツルキケマン
デンジソウ
ヒメシロチョウ
ヒメギフチョウ
ニホンリス
ホンドイタチ
ニホンヤマネ
ニホンツキノワ
ニホンアナグマ
ニホンヒキガエル
ニホンアカガエル
ニホンアマガエル
ニホンヤモリ
ニホンスッポン
ニホンイシガメ
ニホンイモリ
ニホンアカハライモリ
ニホンハコネサンショウウオ
ニホンヒバリ
ニホンヤブ
ニホンヤブ
ニホンヤブ